

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

言語処理学会事務局:

〒152 東京都目黒区大岡山 2-22-1
東京工業大学 大学院情報理工学研究科
計算工学専攻 田中研究室内
tel: 03-5734-3046 fax: 03-5734-2915
<http://www.kyutech.ac.jp/nlp/>

内容:

- 自然言語処理 Vol.4 No.4 目次
- 言語処理学会第3回通常総会報告
- 言語処理学会第4回年次大会のご案内
- 言語処理学会第4回年次大会併設ワークショップテーマの募集
- 自然言語処理特集号の投稿募集案内 (再掲)
 - 特集号「談話・対話の言語学的, 心理学的モデル」
 - 特集号「音声認識・理解・合成のための日本語処理」
- 自然言語処理投稿論文の別刷代免除制度のお知らせ
- PACLING'97 Call for Participation (2nd version)

- ★ 自然言語処理 Vol.4, No.4 は, 1997年10月10日発行予定です
- ★ 第3回通常総会を1997年6月13日に東京工業大学で開催いたしました。
- ★ 第4回年次大会は1998年3月23～26日に九州大学で開催いたします。また, 年次大会に併設して開催予定のワークショップテーマの募集をしています。
- ★ 自然言語処理では「談話・対話の言語学的, 心理学的モデル」および「音声認識・理解・合成のための日本語処理」のテーマで特集号を企画しています。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。
- ★ 優れた論文の投稿を奨励する目的で, 自然言語処理への投稿論文の別刷代免除の制度が設けられました。
- ★ 言語処理学会が後援する PACLING '97 が9月2～5日に明星大学で開催されます。

自然言語処理 Vol.4 No.4 目次

巻頭言 荻野綱男

論文

動詞と主体の属性を用いた複文の接続関係の解析

向仲 頌

英語副詞語順決定方式－日英機械翻訳を例として－

小倉健太郎, F・ボンド, 池原悟

表層表現による日本語動詞句のアスペクトの推定

大石 亨, 松本 裕治

技術資料

日本語の自由会話における談話構造の推定～因果関係を表す接続詞の場合～

西澤 信一郎, 中川裕志

発話タイプつきコーパスを用いた確率的対話モデルの自動生成

北 研二, 福井 義和, 永田 昌明, 森元 暉

言語処理学会第3回通常総会報告

(1) 第3回通常総会次第

日時 1997年6月13日(金)16時40分～17時30分

場所 東京工業大学 ベンチャービジネスラボラトリ 1F プレゼンテーション室

東京都目黒区大岡山 2-12-1

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 第3回年次大会優秀発表賞授賞式
4. 議長選出
5. 1996年度活動報告
6. 1996年度決算報告, 監査報告
7. 1997年度事業計画提案
8. 1997年度予算計画提案
9. 1997年度評議員構成
10. 1997年度役員構成
11. 会則第2条(事務局所在地)の改正提案
12. 閉会

(2) 1996 年度事業報告

1. 概要

言語処理学会発足から2年間の活動を踏まえて、理事会および編集委員会を中心に学会の基盤作りに努めました。第一に、編集委員を拡充し、広範な分野からの会誌「自然言語処理」への投稿を積極的に奨励しました。多くの投稿があり、年間の掲載論文が26件になりました。第二に、年次大会において有益なチュートリアル講演などが提供できるよう大会のプログラム編成を進めました。チュートリアル講演には200名以上が参加し、本会議では144件の論文発表を得て、約450名が参加しました。第三に、学会活動を公に認知してもらい、円滑な学会活動ができるように努めました。特許庁の学術指定団体の指定を受けると共に、会誌も郵政省の学術刊行物としての指定を受けました。

2. 会員現況 (1997年3月31日現在)

正会員	510名
学生会員	126名
賛助会員	14組織 (15口)
定期購読会員	27組織

3. 会誌の発行

- ◇ 第3巻第2号 (1996/4/10 発行, 通巻7号)
巻頭言, 論文5編, 入会案内・執筆案内等会告
- ◇ 第3巻第3号 (1996/7/10 発行, 通巻8号)
巻頭言, 論文5編, 入会案内・執筆案内等会告
- ◇ 第3巻第4号 (1996/10/10 発行, 通巻9号)
巻頭言, 技術資料1編, 論文7編, 入会案内・執筆案内等会告
- ◇ 第4巻第1号 (1997/1/10 発行, 通巻10号)
巻頭言, 論文8編, 入会案内・執筆案内等会告

4. 第3回年次大会の開催

- ◇ 開催期日: 1997年3月26日(水)～28日(金)
- ◇ 会場: 京都大学工学部 (京都市左京区吉田本町)
- ◇ プログラム

[チュートリアル講演]

3月26日(水)

自然言語処理のインターネットへの応用

菊井玄一郎氏 (NTT 情報通信研究所)

文系研究者のための言語処理ツールとデータベース

佐野洋氏 (東京外国語大学 外国語学部)

認知言語学のダイナミズム－新しい言語科学のパラダイム

山梨正明氏 (京都大学 総合人間学部)

[招待講演]

3月27日(木)

ミニマリストプログラム (MP) と日本語研究

井上和子氏 (神田外語大学)

[パネルディスカッション]

3月28日(金)

言語理解研究への回帰

司会: 島津明氏 (NTT 基礎研究所)

パネリスト:

池原悟氏(鳥取大学), 楠見孝氏(東京工業大学), 坂本勉氏(九州大学),
徳永健伸氏(東京工業大学), 中川裕志氏(横浜国立大学)

[一般発表 講演発表]

3月27日(木)～28日(金) 128件

[一般発表 ポスター発表]

3月28日(金) 16件

◇ 参加者数

	会員	学生会員	非会員	学生非会員	合計	予稿集のみ
チュートリアル講演	99	28	61	16	204	31
本会議	227	56	111	49	443	30

◇ 年次大会優秀発表賞

第3回年次大会実行委員会は年次大会優秀発表賞選定委員会を兼ねて審議を進めた結果, 次の3件を第3回年次大会優秀発表賞として選定しました.

「素性構造抽象機械と部分的単一化の実現」(C2-1)

牧野 貴樹, 西田 健二, 鳥澤 健太郎, 辻井 潤一(東京大)

「文書検索のための大規模文書クラスタリング」(A3-2)

岩山 真(日立), 徳永 健伸, 桜井 直之(東工大)

「大域文書修飾: 標準タグによる言語データの大規模な構造化と再利用」(D1-6)

橋田 浩一(電総研), 杉村 領一(松下), 柏岡 秀樹(ATR), 内山 将夫(筑波大),

Christoph J. Neumann(筑波大)

5. ニュースレターの発行

- ◇ Vol.3 No.4 (1996/06/03) ワークショップのプログラム
- ◇ Vol.3 No.5 (1996/08/25) 人工知能国際会議(IJCAI) call for papers
- ◇ Vol.3 No.6 (1996/09/25) 言語処理学会 第3回 年次大会実施要領
- ◇ Vol.3 No.7 (1996/10/14) シンポジウムの案内
- ◇ Vol.3 No.8 (1996/12/12) 自然言語処理 Vol.4 No.1 目次, 特集号の案内など
- ◇ Vol.4 No.1 (1997/02/06) 言語処理学会第3回年次大会実施要領など
- ◇ Vol.4 No.2 (1997/02/25) 論文誌における二重投稿についてなど

6. 会議

◇ 理事会

計6回の理事会を開催し, 新入会員の承認, 年次大会の方針の決定, 学会活性化の具体策の審議などを行ないました. 学会員支援活動として, CD-ROM版新聞記事データの利用支援の継続や会員名簿の発行(1996年9月)を行ないました. また, 本学会の特許庁学術指定団体の承認申請(1996年9月認定), 会誌「自然言語処理」の郵政省第四種学術刊行物指定の申請(1997年1月指定)を行ないました. このほか, 英文誌の発行, ならびに, 用語集(および解説)の整備に向けた作業部会を発足させました.

理事会開催:

第13回(1996年4月22日), 第14回(1996年5月24日), 第15回(1996年7月11日),
第16回(1996年9月20日), 第17回(1997年12月26日), 第18回(1997年3月26日)

◇ 評議員会

1996年4月22日(月)18:00～19:00に開催し, 賛助会員の増員に向けての取り組み, および評議員選挙の仕方

について議論しました。その後、1997年2月10日～19日にかけて役員および評議員の任期改正について電子メールで議論し、臨時総会に懸ける案件を確定しました。

◇ 編集委員会

編集委員を拡充し39名の編集委員会体制としました。また、海外編集委員15名を設け、会誌拡充を計りました。特集号を企画しました。英文論文誌発行を目指して実現可能性を検討しました。編集委員会を二カ月に一回(計6回)開催し、電子メールを有効に使用して迅速、かつ充実した査読を行ないました。

◇ 年次大会実行委員会

電子メールを使った会議、ならびに協議を主にして、年次大会の準備を進め、委員会の開催はプログラム作成時に1回行ないました。

◇ 臨時総会

1997年3月28日(金)11時40分より、京都大学工学部電気系総合館1F大講義室において臨時総会を開催しました。会則12条(任期)第1項の改正(会長および副会長を除く役員および評議員の任期を4年とし、再任不可とする件)を諮り、承認を得ました。

(改正後)会則: 第12条(任期)

- 1) 会長および副会長の任期は2年とし、再任不可とする。
- 2) 会長および副会長を除く役員および評議員の任期は4年とし、2年毎にその半数を改選する。再任については不可とする。ただし、顧問はこの限りではない。
- 3) 会長および副会長に欠員が生じたときは、後任者を評議員会で選出し、理事会の承認により決定する。この役員の任期は前任者の残任期間とし、この場合に限り再任可とする。(*改正前第2項と同じ)
- 4) 理事および監事に欠員が生じたときは、後任者を会長が指名し、理事会の承認により決定する。この役員の任期は前任者の残任期間とする。(*改正前第3項と同じ)

(3) 言語処理学会 1996年度決算報告(自1996.4.1～至1997.3.31)

勘定科目	金額(円)	備考
小科目		
収入科目		
個人会費	4,252,000	正会員510名 @8,000円×481(未納29), 学生会員126名 @4,000円×101(未納25)
賛助会費	749,588	賛助会員14組織 @50,000円×13, @100,000 円×1(振込手数料相当分412円未納)
特殊購読費	230,000	購読会員27組織 @10,000円×23(未納4)
別刷り代	1,220,000	96年度分全26論文, 95年度分1論文
第3回年次大会収入	3,460,625	第3回年次大会収支報告書参照
雑収入	69,128	会誌 / 予稿集販売62,000円, 利息7,128円
前年度繰越収支差額	7,918,872	
収入合計	17,900,213	

支出科目

(1) 論文誌印刷 / 配送費	3,199,867	別刷り込み 800 部 / 号, 95 年度分 4 号各 100 部増刷 283,800 を円含む
(2) 論文誌編集費	314,300	LaTeX 化費用
(3) 業務委託費	1,339,835	基本会員業務 517,000 円, 宛名ラベル発行, ニュースレター印刷発送費等
(4) 通信費	189,700	
(5) 理事会 / 編集委員会費	151,921	編集委員会 8 回, 理事会 3 回, 会場費等
(6) 第 3 回年次大会開催費	2,934,658	第 3 回年次大会収支報告書参照
(7) 諸経費	700,832	封筒印刷費 129,780 円, 大会発表優秀賞等
当期支出合計	8,831,113	96 年度内に発生・実施された事柄に対する支払を対象とする
次年度繰越収支差額	9,069,100	
支出合計	17,900,213	

- 上記の通り報告いたします。

言語処理学会 副会長 (総務・財務担当兼務) 飯田 仁 (署名・捺印)

- 監査の結果, 上記の結果に相違ありません。

言語処理学会 監事 石綿 敏雄 (署名・捺印)

湖 一博 (署名・捺印)

(4) 1997 年度事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要活動であります会誌の発行が軌道に乗り, また年次大会についても回を重ねるごとに発表論文, ならびに参加者が増え, 会員相互の情報交換を進める場が定着してきました。本年度は言語処理に関連する研究分野間で, より一層一体となった情報交換や研究活動ができるように取り組みます。そのために, 会誌の特集号を企画し, さらに英文論文誌の発行について効果ある具体案作りに努めます。また, 関連研究分野間の相互理解のために, 用語集の整備に積極的に努めます。

2. 会誌の発行

定期発行のほか, 特集号を企画しています。

- ◇ 第 4 巻第 2 号 (1997/4/10 発行)
- ◇ 第 4 巻第 3 号 (1997/7/10 発行)
- ◇ 第 4 巻第 4 号 (1997/10/10 発行)
- ◇ 第 5 巻第 1 号 (1998/1/10 発行)
- ◇ 特集号 (1998 年度発行予定)

3. 第 4 回年次大会の開催

- ◇ 開催期日: 1998 年 3 月 23 日 (月) ~ 26 日 (木)
- ◇ 会場: 九州大学工学部 (福岡市東区箱崎 6-10-1)
- ◇ プログラム

[チュートリアル講演]

3 月 23 日 (月) 3 件

[招待講演]

3月24日(火) 2件

[一般発表 講演発表]

3月24日(火)～26日(木) 発表予定件数 120件

[一般発表 ポスター発表]

3月24日(火)～26日(木) 発表予定件数 30件

◇ 併設ワークショップ

3月27日(金)にワークショップの開催を企画しています。

4. 会議

◇ 総会

通常総会を本年度と同時期に開催します。

◇ 理事会

昨年度同様に開催します。特に、英文誌の発行、用語集(および解説)の整備に向けての取り組みを強化します。

◇ 評議員会

総会に合わせて1997年度の第1回会合を開催します。中心議題として1998年1月に公示・選挙を開始する評議員選挙の仕方を取り上げます。また、賛助会員の増員に向けての具体的な施策、学会全体の活動強化に向けた施策のほか、英文誌への取り組みについて議論します。

◇ 編集委員会

拡充した編集委員にて会誌拡充を計ります。特集号を企画します。英文論文誌発行を目指して具体的計画を作り、実現可能性を検討します。編集委員会を二カ月に一回(計6回)開催し、電子メールを有効に使う迅速かつ充実した査読を行ないます。

5. ニュースレターの発行

学会活動の最新情報を会員に伝えるため、適宜電子メールおよび郵便によるニュースレターを発行します。

6. 1997年度評議員構成(別項参照)

会則改正により、1996年度に引き続き1997年度も同じ体制を取ります。

7. 1997年度役員構成(別項参照)

会則改正により、1996年度に引き続き1997年度も同じ体制を取ります。

(5) 言語処理学会 1997 年度予算案 試算 (自 1997.4.1 ~ 至 1998.3.31)

勘定科目	金額 (円)	備考
小科目		
収入科目		
個人会費	4,400,000	正会員 @8,000 円, 500 名, 学生会員 @4,000 円, 100 名
賛助会費	1,000,000	賛助会員 @50,000, 20 口 (2 口加入あり)
特殊購読費	300,000	購読会員 @10,000, 30 組織
別刷り代	1,280,000	別刷り @40,000 × 24 論文 / 年, 特集 8 論文
第 4 回年次大会収入	2,700,000	
雑収入	60,000	会誌販売代, 利息等
収入見込み計	9,740,000	
前年度繰越収支差額	9,069,100	
収入合計	18,809,100	
支出科目		
論文誌印刷 / 配送費	3,600,000	別刷り・送料込み 900 部 / 号, @700,000 円 × 4 号, 特集号 @800,000 円 × 1 号
論文誌編集費	300,000	@15,000 円, 20 論文, LaTeX 化費用
業務委託費	1,400,000	基本会員業務 772,000 円 (学会事務センター), 宛名ラベル発行, 発送費等加算
通信費	300,000	総会案内, 評議員選挙, 査読通知等 (@90 × 600 通 × 4 回, @270 × 300 通等)
理事会 / 編集委員会費	200,000	@15,000 円, 10 回, 会場費 50,000 円
第 4 回年次大会開催費	3,000,000	大会準備費 300,000 円を含む
別刷り代援助資金	150,000	別刷り @30,000, 5 論文 / 年
諸経費	800,000	英文論文集発行予算枠 500,000 円
支出見込み計	9,750,000	
次年度繰越収支差額	9,059,100	
支出合計	18,809,100	

(6) 言語処理学会 1997 年度評議員一覧

氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
相沢 輝昭	広島市大	池田 尚志	岐阜大	池原 悟	鳥取大	井佐原 均	通信総研
石崎 俊	慶応大	植村 俊亮	奈良先端大	奥村 学	北陸先端大	絹川 博之	日立
黒橋 禎夫	京大	坂本 仁	沖電気	白井 克彦	早大	鈴木 等	シャープ
田窪 行則	九大	田中 裕一	ジャストシステム	堤 泰治郎	日本 IBM	徳永 健伸	東工大
鳥澤 健太郎	東大	新田 義彦	日大	野村 浩郷	九工大	橋田 浩一	電総研
日高 達	九大	平川 秀樹	東芝	藤田 稔	キヤノン	松井 くにお	富士通
丸山 直子	東京女子大	丸山 冬樹	三菱	村木 一至	日電	元吉 文男	電総研
安川 秀樹	松下	山内 佐敏	リコー	湯村 武	三洋	横山 晶一	山形大

[計 32 名 (五十音順)]

(7) 言語処理学会 1997 年度役員一覧

役員名	氏名	所属
会長	田中 穂積	東工大
副会長	飯田 仁	ATR
(総務・財務担当兼務)		
理事(編集担当)	樽松 明	電通大
理事(編集担当)	辻井 潤一	東大
理事(編集担当)	島津 明	北陸先端大
理事(編集担当)	中川 裕志	横浜国大
理事(事業担当)	江原 暉将	NHK
理事(事業担当)	中野 洋	国研
理事(事業担当)	中村 順一	九工大
理事(事業担当)	片桐 恭弘	ATR
理事(渉外担当)	松本 祐治	奈良先端大
理事(渉外担当)	荻野 綱男	都立大
理事(総務・財務担当)	白井 諭	NTT
(以上 13 名)		
監事	淵 一博	慶応大
監事	石綿 俊雄	茨城大学名誉教授
(以上 2 名)		
顧問	長尾 真	京大
(以上 1 名)		

(8) 1996 年度会費納入状況 (1997 年 3 月 31 日現在)

	会員総数	納入済み件数	未納件数
正会員	510	481	29
学生会員	126	101	25
賛助会員	14	14	0*
購読会員	27	23	4
合計	677	619	58

* 振込手数料相当分 412 円未納

(9) 言語処理学会第3回年次大会収支報告(1997年5月20日現在)

◇ 収入	3,460,625		
(1) 大会参加費	2,167,000		
	事前(～2/28)	事前(3/1～)	当日
会員	604,000(151)	102,000(17)	354,000(59)
学生会員	74,000(37)	21,000(7)	36,000(12)
非会員	66,000(61)	162,000(18)	288,000(32)
非会員学生	108,000(36)	4,000(1)	48,000(12)
(2) 大会予稿集のみ	126,000		
	事前	当日	事後
	45,000(9)	45,000(15)	36,000(6)
(3) チュートリアル参加費	632,500		
	事前(～2/28)	事前(3/1～)	当日
会員	142,000(71)	24,000(6)	88,000(22)
学生会員	22,000(22)	6,000(3)	6,000(3)
非会員	148,000(37)	91,000(13)	77,000(11)
非会員学生	19,500(13)	0(0)	9,000(3)
(4) チュートリアルテクニストのみ	78,000		
	事前	当日	事後
	24,000(8)	38,000(19)	16,000(4)
(5) 書籍展示代金	20,000		
(6) 懇親会費	365,000		
	一般(5,000)	学生(1,000)	
	350,000(70名)	15,000(15名)	
(7) 予稿集バックナンバー	72,000		
	予稿集(5,000)	チュートリアル(3,000)	
第1回	20,000(4)	15,000(5)	
第2回	25,000(5)	12,000(4)	
(8) 雑収入(利子)	125		

◇ 支出	2,934,658	
(1) 学会センター委託費用	2,174,147	
(1-1)97年3月末まで		
1. 事前参加登録事務	256,110	
2. 当日参加登録事務	90,000	
3. 大会予稿集製作費	1,437,500	(592頁, 500部)
4. チュートリアルテキスト	119,025	(60頁, 300部)
5. 連絡・窓口事務・業務委託費	190,000	
6. 上記(1.～5.)消費税(3%)	62,779	
7. 職員交通費	6,000	
8. 銀行振込手数料	2,296	
(1-2)97年4月以降		
1. 予稿集販売業務委託費用	9,440	
2. 上記(1.)消費税(5%)	472	
3. 銀行振込手数料	525	
(2) 会場関連費用	221,286	
1. 施設使用料	52,436	
2. 大会用携帯電話レンタル	6,808	
3. アルバイト代	154,000	
4. 文具	564	
5. 茶菓	7,478	
(3) 講演謝礼金	240,000	
(4) 懇親会費	299,225	
◇ 収支	+525,967	

ただし、予算に計上されていた大会準備金(20,000)の出納は見送りました。

(10) 会則第2条(所在地)の改正

学会所在地を京都大学工学部電気工学第二教室長尾研究室から東京工業大学大学院情報理工学研究科 計算工学専攻 田中研究室に変更する件。

(改正後) 会則: 第2条(所在地) 本会は事務局を〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学 大学院情報理工学研究科 計算工学専攻 田中研究室に置く。

言語処理学会第4回年次大会のご案内

以下のように第4回年次大会を開催いたしますので、ふるってご参加ください。

日程

1998年3月23日(月)	チュートリアル
3月24日(火)～26日(木)	本大会
3月27日(金)	ワークショップ

会場

チュートリアル, 本大会	九州大学 福岡市東区箱崎
ワークショップ	未定(九州北部地区)

スケジュール(予定)

Call for Paper	1997年9月中旬
発表申込締め切り	1997年12月19日
採否の通知	1998年1月中旬
カメラレディの締め切り	1998年2月27日

言語処理学会第4回年次大会併設ワークショップテーマの募集

言語処理学会第4回年次大会に併設したワークショップを、1998年3月27日(金)に開催いたします。開催の目的は、年次大会を補完して、テーマをしばった詳細な議論をすることです。言語処理全般にわたる本大会では、言語処理の全体像を把握するには好都合ですが、一方、議論を深められないきらいがあります。本ワークショップはこの点を補完するものです。場所は、九州北部地区で、できれば、温泉のあるところを検討中です。日程は、27日の午後から夜にかけてを予定しております。以上の目的にそって、ワークショップのテーマを募集します。提案者は、提案内容を下記の要領で作成し、ご応募ください。

提案内容	ワークショップの名称 開催の主旨(300字程度) 提案者(複数でも可) 氏名, 所属 連絡先 氏名, 所属, 住所, 電話番号, FAX 番号, メールアドレス 発表件数の見込み 参加人数の見込み
募集の締め切り	9月15日
開催日	1998年3月27日(金)
会場	未定(九州北部地区)
参加費	会場費・資料集印刷代として4000円程度を予定。宿泊費は参加者が個別負担。
応募先・問い合わせ先	〒157 東京都世田谷区砧 1-10-11 NHK 放送技術研究所 江原暉将 (第4回年次大会実行委員 ワークショップ担当) 電話 03-5494-2308 FAX 03-5494-2309 メール eharate@strl.nhk.or.jp

自然言語処理特集号の投稿募集案内(再掲)

(1)「談話・対話の言語学的、心理学的モデル」特集号

特集の趣旨:

言語の研究には、純粋に理論的に研究する立場と、何らかの応用システムを作るという立場があり得ますが、従来はとかく、両者の間の乖離が大きいことが指摘されてきました。これは、そもそも、学際的な研究を發表する場が少なく、なかなか業績として評価されにくい、というような事情もあったかもしれません。そこで、この特集号では学際的な研究を幅広く取り上げ、また理論的研究と実用的な研究との交流を促進するために、

- 1) 応用研究の基礎としての理論的な言語研究を理論研究者から広く募る
- 2) 理論言語学プロパーな研究からは取り上げられにくいような話題、例えば、言語学者・心理学者の処理モデルの研究などを積極的に紹介する
- 3) システム作りというような実的な側面が薄くても、工学者、理学者の側からの言語学、心理学に関する基礎的な研究を取り上げる

という目的をもった号を編集したいと思います。

この特集号に採録された論文をきっかけにして真に学際的な研究がますます盛んになれば、編集委員としては望外の喜びとするところです。

対象領域:

談話分析 (談話理解, 談話小辞, 談話構造 談話作成など; 理論的な基礎研究を含む)

照応, 代名詞解釈

対話理論, 対話管理

Grice の協調原理, Relevance 理論, Centering

視点, 敬語

その他本特集号の趣旨からみて適切と思われるもの

投稿資格:

言語に関心をもつ研究者 (例えば, 言語学者, 国語学者, 計算言語学者, 心理学者, 工学者, 理学者) ならば出身, 現在の研究分野は問いません. なお, 論文は通常の査読過程を経た上で掲載の是非が決定されます.

特集編集委員:

田窪行則 (九州大学)

郡司隆男 (大阪大学)

(集まった論文の内容に応じて委員を追加する予定です)

投稿締め切り:

1997 年 9 月 30 日

原稿執筆要領:

「自然言語処理」の原稿執筆案内参照.

「談話・対話の言語学的, 心理学的モデル」特集号への投稿であることを明記して下さい.

(2) 「音声認識・理解・合成のための日本語処理」特集号

特集の趣旨:

音声認識・理解・合成のための手法の研究は言語に依存しない普遍的なものとして進めることが可能で, 国際的にも広く成果を発信することができます. しかしながら, 言語独立な部分と言語固有の部分があって, 日本語を対象とする音声認識・理解・合成を高度化するためには, 日本語に適した処理を考える必要があります.

例えば, 音声認識のための統計的な言語モデルを構築する場合, 英語であれば単に新聞記事などを集めて単語の接続を数えれば良いのかもしれませんが, 対象が日本語であると, 新聞記事などを集めるだけでは不十分です. 単語の接続を数えるためにはまず単語ないし形態素に分割する必要があり, どんな単位にどのようにして分割するかという課題を避けて通ることはできません.

また, 日本語音声合成の品質を高めるためには, 音声合成に適した日本語のテキスト処理を施す必要があります. 読みやアクセント, 息継ぎのタイミングを考慮した日本語テキスト処理の研究と, いわゆる自然言語処理の研究は別の場所で行なわれ, これまであまり交流する機会がなかったように感じます.

そこで, この特集号では, 音声認識・理解・合成のための日本語処理をテーマに取り上げます. 音声研究者からは言語処理の問題と言われ, 言語処理研究者からは音声固有の問題と言われ, その狭間で従来はあまり取り上げられなかった, 発表する場がなかった話題を積極的に取り上げます.

対象領域:

日本語に適した音声認識のための統計的言語モデル

音声理解を高度化するための日本語処理手法

音声合成を高度化するための日本語処理手法

日本語の話し言葉の特徴分析とそれを扱う計算モデル

音声対話処理を高度化するための日本語処理手法

その他本特集号の趣旨からみて適切と思われるもの

投稿資格:

音声や言語に関心をもつ研究者(例えば、言語学者、国語学者、計算言語学者、心理学者、工学者、理学者)ならば出身、現在の研究分野は問いません。なお、論文は通常の査読過程を経た上で掲載の是非が決定されます。

特集編集委員:

市川 薫 (千葉大学)

速水 悟 (電子技術総合研究所)

竹沢寿幸 (ATR 音声翻訳通信研究所)

(集まった論文の内容に応じて委員を追加する予定です)

投稿締め切り:

1998年3月31日

原稿執筆要領:

「自然言語処理」の原稿執筆案内参照。

「音声認識・理解・合成のための日本語処理」特集号への投稿であることを明記して下さい。

自然言語処理投稿論文の別刷代免除制度のお知らせ

別刷代を私費で負担せざるを得ない投稿者を援助し、自然言語処理各分野からの優れた論文の投稿を奨励する制度が設けられています。この制度は、たとえば、論文投稿費用の支出制度を持たない研究組織に属する研究者、研究遂行時から所属組織が変わった研究者など、「所属組織からの別刷代支払いが困難な」投稿者に対して別刷代の免除をします。この免除を希望する場合には、希望する理由を記した文書(簡単なもの)を添えて論文投稿時に申請してください。編集委員会で審査の結果適当と認めた場合には、掲載論文に対する別刷代が3万円を限度として免除されます。

PACLING'97 Call for Participation (2nd version)

PACLING'97

September 2-5 1997

Ohme Campus, Meisei University

*About PACLING '97

PACLING(Pacific Association for Computational Linguistics) has grown out of the very successful Japan-Australia join symposia on natural language processing held in November 1989 in Melbourne, Australia and in October 1991 in Iizuka, Japan. The first and second meetings of the retitled PACLING, a name designed to express the wider membership, took place in Vancouver, Canada in 1993 and in Brisbane, Australia in 1995. PACLING '97 will be a low-profile, high-quality, workshop-oriented meeting whose aim is to promote friendly scientific relations among Pacific Rim countries and beyond. The conference is a unique forum for scientific and technological exchange, in the sense that it is rather small and rather regional. PACLING '97 in Ome which is the third under the name, succeeding 1st and 2nd conferences and adding something new to the tradition of the conference, features 21 carefully selected oral presentations, 15 suggestive poster presentations, and 5 invited speeches by unique and active guest speakers. As is seen in following outline of the meeting, it has relaxative schedule to encourage fruitful discussion. We cordially invite you to participate this meeting at the rim of Tokyo Metropolis.

*The outline of the conference

1.Name of the conference: PACLING '97

2.Period of the conference: Sept. 2nd (Tue) through Sept. 5th (Fri) 1997

3.Venue: Ome campus Meisei University, 2-590 Nagafuchi Ome-shi Tokyo 198 Japan

4. Participation fee: 25,000Yen per a non-student and 15,000Yen per a student. This furnishes, a proceeding, banquet, lunches at the conference site, the transportation for the excursion. * This should be paid at the first day of the conference in cash.

5. Registration: * Please send an email to the following contact point, by August 22nd, including the next information.

- Full name of the participant
- Non-student / student
- Affiliation
- Postal address
- Telephone, FAX numbers
- Email address

6. Contact point:

Hiroshi Sakaki
E-mail sakaki@ei.meisei-u.ac.jp
Telephone +81 428 25 5215
FAX +81 428 25 5184

7. Detail Information of conference including access route and lodging will be included in the following Web page.

<http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/pacling97/>

***Program:**

97/09/02 (Tue)

10:00–11:00 Registration

10:30–11:00 Opening

Naoyuki Okada (President, PACLING committee)

Shigeyuki Tanaka (President, Meisei University)

11:15–12:15 Invited Talk 1

Paul Mc Kevitt (Professor, Aalborg University, Denmark)

Intelligent Multimedia

13:45–14:45 Invited Talk 2

Hiroya Fujisaki (Professor, Science University of Tokyo, Japan)

Toward Intelligent Processing of Linguistic Information

15:00–16:30 1A: Semantics

1B: Utterance Analysis

16:30–18:00 Poster Session (1)

Reception

97/09/03 (Wed)

10:00–11:00 2A: Discourse

2B: Text analysis

11:15–12:15 Invited Talk 3

Nick Cercone (Professor, University of Regina, Canada)

Natural Language/Database Interfaces: New Hope for the Dead or a Procrustean Bed?

13:45–14:45 Invited Talk 4

Christian Boitet (Professor, Grenoble University, France)

GETA's MT methodology and its current development towards personal networking communication and speech translation in the context of the UNL and C-STAR projects

15:00–16:00 3A: Language Translation (1)

3B: Information Extraction

16:15–17:45 Poster Session (2)

Banquet

97/09/04 (Thu) Excursion to Fujigoko (five lakes) around Mt.Fuji

97/09/05 (Fri)

10:00–11:00 4A: Language Translation (2)

4B: Collocation

12:30–13:35 5A: Morphology and Phonology

5B: Syntax Analysis

13:45–14:45 Invited Talk 5

Minako O'Hagan (Lecturer, Victoria University of Wellington, New Zealand)

A Teletranslation Scenario in Distributed VR Environments: Role of Language Agents

15:00–15:15 Closing

* * * * *

1A: Semantics (97/09/02 15:00–16:30)

A Conceptual Analysis of Emotional Words for an Intellectual, Emotional Agent.

Masato Tokuhisa, Naoyuki Okada (Japan).

3D Space Understanding for Computer Animation based on Indoor Spatial Expressions.

Hiromi Baba, Kyoko Kai, Jun-ichi Nakamura (Japan).

Semantic Disambiguation by Concept Co-occurrence Association.

Akitoshi Okumura, Kazunori Muraki (Japan).

1B: Utterance Analysis (97/09/02 15:00–16:30)

Cooperative Understanding of Utterances and Gestures in Dialogue-Based Problem Solving System.

Tsutomu Endo, Tsuneo Kagawa (Japan).

Cooperative Analysis of Dialogue Sentences with Multiple Weak Grammars.

Akira Shimazu, Mikio Nakano, and Kiyoshi Kogure (Japan).

Poster Session (1) (97/09/02 16:30–18:00)

An Improvement of the Method for Removing Erroneous Translation Rules in GA-ILMT.

Hiroshi Echizen-ya, Kenji Araki, Yoshikazu Miyanaga, Koji Tochinai (Japan).

Performance Evaluation for Adaptable Machine Translation Method.

Kenji Araki, Koji Tochinai (Japan).

Prediction Method of Words for Translation of Unknown Words with Units Extracted from the Pairs of Words and Words for Translation Using Inductive Learning.

Hisayuki SASAOKA, Kenji ARAKI, Yoshio MOMOUCHI, Koji TOCHINAI (Japan).

Multilingual dictionary construction and services case study with the Fe* projects.

Mathieu Lafourcade (France).

Merging a strictly deep-case approach and a multilevel approach in a pivot language definition for MT.

M. Tomokiyo, N. Nedeau, Ch. Boitet (France).

Towards an evolution of Memory Based Translation Systems

Emmanuel Planas (France).

Classifying Correspondence in Japanese and Korean.

Francis Bond, Kyonghee Paik (Japan).

2A: Discourse (97/09/03 10:00–11:00)

Processing of Meaning through Partial Matching among Dependency Structures

Hiroshi Sakaki (Japan)

Discourse Network: A Framework for Modelling Textual Structures.

Samuel S.W. Chan, Benjamin K.T'sou (Hong Kong).

2B: Text analysis (97/09/03 10:00–11:00)

Segmenting Korean Compound Nouns using Statistical Information and a Preference Rule.

Bo-Hyun Yun, Min-Jung Cho, Hae-Chang Rim (Korea).

Developing Patterns for Name Identification Using Statistical Techniques.

Jim Rankin, Yoshio Eriguchi (Japan).

3A: Language Translation (1) (97/09/03 15:00–16:00)

Beyond Intralingual: Initial Experiments with an English-Thai Translation System.

Kanlaya Naruedomkul, Nick Cercone (Canada)

Multilingual Machine Translation by Sharing of Grammatical Knowledge based on Language Typology.

Sung-Kwon Choi, Taewan Kim, Dong-In Park (Korea).

3B: Information Extraction (97/09/03 15:00–16:00)

Extraction of Sentences from a Japanese Text using Inter-sentential Connectivity.

Jun'ichi FUKUMOTO (Japan).

A Strategy of Extracting Clinical Information from Narrative Medical Records.

Teruyoshi Hishiki, Kazuhiko Ohe, Shigekoto Kaihara (Japan).

Poster Session (2) (97/09/03 16:15–17:45)

Reluctant Paraphrase: Textual Restructuring under an Optimisation Model.

Mark Dras (Australia).

Fine-grained Utterance Delimitation and Organization in Incremental Explanation Generation.

Kentaro Inui, Katsuyuki Sakaniwa, Hiroaki Ishizawa, Takenobu Tokunaga, Hozumi Tanaka (Japan).

A Prototype of Japanese Sentence Generation System from SD-Formed Meaning Data.

Masahiro Wakiyama, Shouta Yoshihara, Eiji Kawaguchi (Japan).

Extraction based on Information Structure

Kiyomi Mimura (Japan).

Extension of a Feature Structure Abstract Machine for Partial Unification.

Kenji Nishida, Takaki Makino, Kentaro Torisawa, Yuka Tateisi, Jun'ichi Tsujii (Japan).

Japanese Document Retrieval System on WWW using Dependency Relations between Words.
Tsunenori Mine, Kazuaki Aso, Makoto Amamiya (Japan).

A Comparative Study of Human Efforts in Textual Summarization.

Benjamin K. Tsou, Hing-Lung Lin, Tom B.Y. Lai (Hong Kong).

4A: Language Translation (2) (97/09/05 10:00–11:00)

Incremental Spoken Language Translation Utilizing Grammatically Ill-formed Expressions.

Shigeki Matsubara, Satoru Asai, Yasuyoshi Inagaki, Katsuhiko Toyama (Japan).

Developing MT lingware through INTERNET: ARIANE and the CASH interface.

Etienne Blanc, Pierre Guillaume (France).

4B: Collocation (97/09/05 10:00–11:00)

Retrieving Domain Specific Collocations by Co-occurrences and Word Order Constraints.

Sayori Shimohata, Toshiyuki Sugio, Junji Nagata (Japan).

Collocational Similarity: A Firthian Approach to Corpus Analysis.

Paul R. Hays (Japan).

5A: Morphology and Phonology (97/09/05 12:30–13:35)

Korean Morphology with Elementary Two-Level Rules and Rule Features.

Sang-Zoo Lee, Hae-Chang Rim (Korea).

English Graphemes and their Corresponding Sound Units.

Jan Zhang, Howard J. Hamilton, Brent Galloway (Canada).

5B: Syntax Analysis (97/09/05 12:30–13:35)

Compound Unit Recognizer for Pattern-Based Approach to Multilingual Machine Translation.

Hanmin Jung, Sanghwa Yuh, Taewan Kim, Dong-In Park (Korea).

A Parallel CKY Parsing Algorithm on Large-Scale Distributed-Memory Parallel Machines.

Takashi Ninomiya, Kentaro Torisawa, Kenjiro Taura, Jun'ichi Tsujii (Japan).

問い合わせ先

学会に関する問い合わせは「学会センター関西」をお願いします。

〒565 豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル 14F

学会センター関西 (担当: 山元 理恵)

tel: (06)873-2301

fax: (06)873-2300

email: o-socie@bcasj.or.jp

【 ニュースレター担当: 片桐恭弘

〒619-020 京都府相楽郡精華町光台 2-2

ATR 知能映像通信研究所

fax: 0774-95-1408

e-mail: katagiri@mic.atr.co.jp

】